長谷宗悦

想いが根を下ろすとき

2024年

永遠の別れは、どのような理由であれ、とても辛い。
自然死、自死、病死、災害・事故・犯罪による死、そして紛争や戦争による死。
それぞれのかたちで、私たちから大切な人々を奪っていく。

死は、本来、他人事である。
それでも私たちは、故人の人柄や生前の生き方、そしてその哲学に心を惹かれる。
一人ひとりの人生は、人類の共有資源ともいえる。
どのような形であったとしても、その価値は計り知れない。
故人や先人への想いは私たちの内に育ち、静かに歴史を紡いでいく。

死は、故人への想いを解き放つ。
昨年末から、私の大切な人たちが次々と旅立った。
もう二度と会えないと知った瞬間から、故人たちは私の心の奥深くに根を下ろしていった。
きっと、このような感情を抱く方も少なくないのではないだろうか。

「一人で生まれ、一人で死ぬに、なぜ一人で生きられぬ」という川柳がある。
その問いの前で、私はいまもなお、右往左往している。